



競技

▲風を受けないように、列を作って滑る少年男子10,000m決勝



▲表彰を受けた宮地慶樹君(武並町)



▲「がんばれ～」の声援を送る子どもたち

少年男子、少年女子の種別ごとに行われまして。市内からも、14人の選手が出場し活躍。中でも、少年男子1500mに出場した宮地慶樹君(武並町)は、見事優勝に輝きました。また成年男子500mで田口和征さん(岩村町)、少年男子500mで平出悠斗君(上矢作町)がそれぞれ第5位、第7位に入賞。伊藤優子さん(三郷町)と上田奈津希さん(岩村町)が出場したリレー少年女子2000mは、第5位の入賞でした。4日とも天候に恵まれ、会場には、連日多くの観覧者が訪れて、選手に熱い声援を送りました。入場者は、開始式を合わせると目標の1万人を大きく上回る3万3000人と、大盛況でした。



▲リンクの間近の観客席で選手を応援



開始式

▲選手の代表で宣誓する田口和征さん

選手代表の宣誓は、古田肇知事をはじめ、張富士夫日本体育協会会長や橋本聖子日本スケート連盟会長らを迎え、盛大に行われました。



国体スピードスケート競技

入場者は目標上回る3万人
ぎふ清流国体に弾み

第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」冬季大会スピードスケート競技会が1月28日から31日までの4日間、恵那スケート場で開催されました。当市では47年ぶりの開催となった国体。入場者数は、前日の27日に恵那文化センターで行われた開始式と合わせると3万人を超え、目標の1万人を大きく上回りました。この競技会の盛況ぶりは、ぎふ清流国体の最初の競技として、弾みを付けました。

開始式で田口さんが宣誓

ぎふ清流国体の最初の競技として始まったスピードスケート競技。1月27日には、冬季大会スピードスケート競技会の開始式が恵那文化センターで開催され、開幕となりました。開始式は、古田肇知事をはじめ、張富士夫日本体育協会会長や橋本聖子日本スケート連盟会長らを迎え、盛大に行われました。

宮地君が準優勝に輝く

競技は、1月28日から4日間、恵那スケート場で開催されました。国内で最も西に位置する当スケート場。全国から選手が集まり、スピードや技を競いました。競技種目は、500mや1000m、1500mなど7種目。成年男子と成年女子、

誓では、田口和征さん(岩村町)が「多くの人に支えられ、スケートを続けることができている。その喜びをかみしめ感謝の気持ちを忘れず、全身全霊で正々堂々競技することを誓います」と力強く宣誓しました。歓迎アトラクションでは、体操のお兄さんとおなじみの佐藤弘道さんと一緒に、子どもたちが、ミナモダンスを披露しました。



▲体操のお兄さんと一緒にミナモダンス



▲日本スケート連盟会長の橋本聖子さん



▲県旗入場に合わせ手を振る岐阜県選手団



自慢の味を賞味あれ

市民

混合合中でのみ分別を補助

選手や監督に温かい豚汁を提供

ミナモのおもちゃ作りを指導

井上あずみさんと親子が歌を熱唱

競技を運営する大会役員



小学生が書いた他県の応援旗

会場では、一層国体を盛り上げるため、多くのボランティアや市民らが活躍しました。
スケート場外に設けられたテントハウスでは、えなハヤシや寒天ラーメン、五平餅などを取りそろえた市内13地域の味自慢など「グルメ祭り・バサー」を開催しました。多くの方に恵那の自慢の物を食べてもらおうと、朝早くから準備。昼時になると、テントの中はあふれんばかりの人となり、用意した食品は、売り切れが続出するほどでした。
休憩所では、ボランティアの皆さんが温かいコーヒーや紅茶、お茶を選手や監督、観客などに振る舞いま

国体の盛り上げに一役

した。気温が低いためか、温かい飲み物には、長い列ができていました。
スケート会場では、寒さをしのぐ敷物や選手を応援する応援旗を配る係、表彰式で補助をする係、ごみを分別して片付ける係など、多くのボランティアが活躍しました。駐車場でも、会場が混み合わないよう、消防団員が交通整理をしました。
ぎふ清流国体のテーマソングは「はばたけ、未来へ」。1月28日には、歌手の井上あずみさんと一緒に子どもや親がこの歌を歌い、会場を盛り上げました。また大会中、国体のキャラクターの「ミナモ」と一緒に踊る「ミナモダンス」にも、たくさん子どもたちが参加しました。

市内の学校の子どもたちも、大会の盛り上げに一役買いました。全国からの選手を歓迎するために、たくさん立てられたのぼり旗。小学生が選手を応援するメッセージを書きました。事前に都道府県の特徴や特産品などを調べてデザインしたり、絵を描いたりして、それぞれ工夫がされていました。
その他、スケート競技の役員や警備員など多くの市民が、競技会の盛り上げに貢献しました。
ボランティアや役員など、競技会に協力した方は、4日間で延べ約1000人になります。

選手



かずゆき 田口和征さん (岩村町)

選手宣誓は大会より緊張

開始式に選手代表で宣誓をしました。予想よりも盛大な式だったのが驚きでした。この大会に出ることよりも、緊張しましたが、練習通りに終わり、胸をなで下ろしました。

第5位に入賞した成年男子500mでは、普段通りの滑りができました。それを後押ししてくれたのが、みんなの声援です。この大会よりも素晴らしい大会を経験できました。これからもさらに上を目指して頑張りたいです。



▲成年男子500mで滑走する田口選手

競技役員



ようこ 樋口葉子さん (岩村町)

大会の成功でホッとした



▲選手の受け付けをする競技役員

国体では、競技役員として参加しました。恵那市では、スケートの国体開催は初めてのことでもあり、準備段階のうちから、道具の確認やルールの再確認など、入念に行っていました。当日は、朝一番に来て、役員の受け付けを行ったり、選手の招集を行ったりしました。
国体を迎える前は不安でいっぱいでしたが、大きなトラブルもなく無事成功させることができてホッとしています。

応援



たけひろ 市川雄浩君 (三郷小学校6年)

レース見て勇気ももらった

スタンドから競技の応援を一生懸命しました。
スピードスケートの観戦は、去年のジュニアの全日本大会を見て以来2回目です。今回の競技は、選手も観客も多く、とても迫力がありました。転んだ時でも、すぐに起き上がってレースを一生懸命やっている姿を見て、勇気ももらったと感じました。
東北の選手も滑っていて、早く復興するのいいなと思いました。



▶市内の小中学生が、大型バスで代わる代わる来場

スタを手送
タを旗選
援でて援
ンドって援
振にる

ボランティア



みさこ 磯村美砂子さん (長島町)

国体を盛り立てたく参加



▲来客が多く飲み物を出すのは大忙し

ボランティアで、選手や来場者にコーヒーやお茶などの飲み物を出す係を2日間やりました。
恵那市で国体をやるに聞いて、みんな盛り立てていきたいと思い、ボランティアに手を上げました。競技の休憩の時には、すくなくたくさんの方が並び、大忙しで大変でした。でも、人が少なくなつた時には、選手や監督さんと「寒いですがね」とか「またゆっくり恵那に遊びに来てくださいね」などと話すこともできました。